

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地										
東京医療専門学校	昭和51年9月10日	齊藤 秀樹	〒 160-0008 (住所) 東京都新宿区四谷三栄町16番12号 (電話) 03-3341-4043										
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地										
学校法人 呉竹学園	昭和31年10月17日	理事長 坂本 歩	〒 160-0008 (住所) 東京都新宿区四谷三栄町16番12号 (電話) 03-3341-4043										
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士									
医療	医療専門課程	鍼灸マッサージ教員養成科	文部省告示第7号	-									
学科の目的	鍼灸マッサージの教員を養成するにあたり、必要な高度の専門知識及び技術を授け、国民の保健衛生の増進に寄与するとともに、広く社会に貢献する有為の人材を育成することを目的とする。												
認定年月日	平成26年3月31日												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習 実験 実技								
2 年	昼間	2298単位時間	560単位時間	280単位時間	882単位時間 0単位時間 576単位時間 単位時間								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数								
50人	53人	1人	3人	41人	44人								
学期制度	■前期:4月1日～7月31日 ■中期:8月1日～11月31日 ■後期:12月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 100点満点換算で60点以上を合格とする。 評価の方法: 100点満点換算で60点以上を合格とする。								
長期休み	■学年始:- ■夏季:7月23日～8月16日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月19日～3月31日			卒業・進級条件	進級及び卒業の認定は、学業成績及び単位の修得並びに出欠状況等により教務会の議を経て校長が決定する。								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 科長・担任が個別に学生の学業・生活等の相談を受けている。			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 吳竹医学会学術大会・体育大会・学園祭 ■サークル活動: 有								
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 専門学校、治療院、病院 等 ■就職指導内容 科長・担任が相談窓口になっている。また、求人検索システムにて、求人情報を閲覧できるようにしている。			主な学修成果(資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師養成施設教員資格</td> <td>①</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師養成施設教員資格	①	-	-
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数										
あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師養成施設教員資格	①	-	-										
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 3.9 % 令和3年4月1日時点において、在学者51名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者49名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、病気・体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 退学については、月報にて要因および傾向を把握し、担任による面談を実施している。												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 学内進学奨学制度・卒業生奨学制度・推薦入学奨学制度・授業料一部奨学制度・経済的困窮者に対する学費減免制度(在学中に家計支持者が規程要件に該当し、審査の結果学費の減免が必要と認められた場合、授業料の一部を免除)												
第三者による学校評価	■専門実践教育訓練給付: 有 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 4名												
当該学科のホームページURL	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL												
	https://www.kuretake.ac.jp/t_therapeutic/department/teacher												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野(医療)に関する業界のニーズ、人材の動向および最新の専門知識・技術等の把握を目的として施術所、医療機関、介護福祉施設、職能団体および学術団体等の役職者および有識者で構成される教育課程編成委員会を設置し、その見識および専門性を吸収して実践的かつ専門的な職業教育を推進するため、企業等と連携して教育課程の編成、授業科目の開発、授業内容の改善・工夫・評価等を行うことを基本方針とする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

「教育課程編成委員会実施要項」に規定されているとおり、教育課程編成委員会は学科毎に校長が年2回以上開催する。教育課程編成委員は、職業実践専門課程の趣旨に基づき、専攻分野の知見を有する関係業界団体の役職者、関係施設の役職者および学内教職員の役職者、責任者(実習担当者およびカリキュラム担当者)等で構成され、教育方針、社会ニーズ、知識・技術の到達レベル等について意見交換を行う。その過程で得られた内容を「教育課程編成規則」に定める作業部会において審議し、校長の承認を経て次年度の教育課程編成及び授業実施計画に反映する。なお、実施状況や成果等については委員会にて科長が実施経過を報告する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
高田 常雄	東京都鍼灸師会 会長、健康ハウス・タカダ 院長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	①
吉田 省吾	東京都柔道整復師会 理事、健幸堂接骨院 院長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	①
石川 英樹	全日本鍼灸マッサージ師会 副会長、いしかわ治療院 院長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	①
澤登 拓	株式会社フレアス 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	③
光本 朱美	株式会社ハリジョンヌ 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日	③
今井 賢治	帝京平成大学 ヒューマンケア学部 鍼灸学科 教授	令和4年4月1日～令和5年3月31日	②
友枝 郁也	亀山整骨院 院長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	③
甲野 功	あじさい鍼灸マッサージ治療院 院長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	③
大饗 将司	acu.place自由が丘治療院 院長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	②
齊藤 秀樹	東京医療専門学校 校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
建石 泰三	東京医療専門学校 事務長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
中村 真通	東京医療専門学校 鍼灸マッサージ科/鍼灸科 科長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
杉山 直人	東京医療専門学校 柔道整復科 科長・実技担当	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
小川 裕雄	東京医療専門学校 鍼灸マッサージ教員養成科 科長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
畠山 博式	東京医療専門学校 鍼灸マッサージ科/鍼灸科 科長補佐	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
藤田 洋輔	東京医療専門学校 鍼灸マッサージ科/鍼灸科 科長補佐	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
早川 幸秀	東京医療専門学校 柔道整復科 科長補佐	令和4年4月1日～令和5年3月31日	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回（8月、1月）

（開催日時（実績））

第1回 令和4年8月29日(日) 14:00～16:00(予定)

第2回 令和5年1月30日(日) 14:00～16:00(予定)

（令和3年度の開催実績：令和3年8月29日(日)、令和4年1月30日(日)）

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- 外部臨床実習の実習期間中の健康管理について、担当教員は検温、マスクおよびフェイスシールドの着用、手洗いの徹底を促し、学生の行動や健康状態の把握を徹底する。
- 実技・実習におけるオンライン形式およびオンデマンド形式の授業の検討。
- 外部臨床実習の日程について、実習先へ早期に通知する。
- 外部臨床実習の学生フォローアップとして、担当教員は臨床実習期間中に実習先を訪れ意見交換を行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携は、企業等の持つ専門性・技術・経験等を活用し、より実践的な教育効果を得るために行い、関連する業界等の社会のニーズを捉え、卒前教育として基礎的な知識を得ることを目的として行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実技実習の講師には、企業等で活躍する現場の施術者で教員資格を有する者を招聘している。当該講師が施術に関する実践的な授業を行うとともに、学期毎に試験および評価を行いその学修成果を把握している。また、大学における解剖見学実習など授業時間外の実習を実施し、医学知識の更なる理解を目指している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床医学論・臨床実習	(鍼灸鑑別)医療機関における鍼灸治療の役割は、今後さらに重要になってくる。医療連携の中で鍼灸師の果たす役割について理解する。	埼玉医科大学東洋医学センター
はりきゅう臨床学Ⅱ(東洋医学臨床論)・臨床実習	(経絡治療)経絡治療を行うために必要な東洋医学的な理論と知識を習得する。あわせて四診法によって得られた診断情報と、病態把握、治療法の組み立て、治療、経過観察など、実際の経絡治療の臨床を行うための技術を習得する。	日本伝統医学研修センター TJM相澤治療院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校では、学校法人吳竹学園研修規程に基づき、教職員の専門性向上および人材育成を目的として計画的に研修を受講させ、同時に自己啓発により自ら学ぶことを奨励する。また、教職員に対して恒常的に関連分野の先端知識に触れる場を提供することによって資質の向上を図り、ひいては教育目標の実現に努める。なお、本校は研修および自己研鑽による教職員のスキルアップを評価し、考課を行う。		
(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：全日本鍼灸学会学術大会 連携企業等：(公社)全日本鍼灸学会 期間：令和3年6月4日～6日 對象：専任教員 内容 医療機関、大学、関係団体等に所属する著名な有識者による講演やパネルディスカッション等を通して、鍼灸医学に関する知見を深める。(大会テーマ：「健康・医療のブレークスルーと鍼灸～からだとこころとらえる五感の医術～」他)		
研修名：吳竹医学会学術大会 連携企業等：医療機関・大学・施術所等 期間：令和3年10月9日 對象：専任教員 内容 医療機関、大学、施術所等の関連施設で勤務する著名な臨床家や研究者を講師として招聘し、専攻分野を含む医学全般に渡って最新の		
研修名：卒後臨床講習会 連携企業等：医療機関・施術所等 期間：通年※新型コロナウイルス感染症により中止 對象：専任教員 内容 臨床で活躍する施術者を講師として招聘し、実践的・専門的な知識・技術を修得することで、臨床力の向上を図る。		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：東洋療法学校協会教員研修会 連携企業等：(公社)東洋療法学校協会 期間：令和3年8月19日～20日 對象：専任教員 内容 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅうの教育における教員の教授力向上、教育方法・学生指導方法の改善及び教員の資質向上等を図る。(研修内容：「教育アップデート～新しい教育課程の運営と授業デザイン～」、「ウイズコロナ時代における専門学校教育の在り方(等)」)		
(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：全日本鍼灸学会学術大会 連携企業等：(公社)全日本鍼灸学会 期間：令和4年6月3日～5日 對象：専任教員 内容 医療機関、大学、関係団体等に所属する著名な有識者による講演やパネルディスカッション等を通して、鍼灸医学に関する知見を深める。		
研修名：吳竹医学会学術大会 連携企業等：医療機関・大学・施術所等 期間：令和4年10月8日 對象：専任教員 内容 医療機関、大学、施術所等の関連施設で勤務する著名な臨床家や研究者を講師として招聘し、専攻分野を含む医学全般に渡って最新の		
研修名：卒後臨床講習会 連携企業等：医療機関・施術所等 期間：通年 對象：専任教員 内容 臨床で活躍する施術者を講師として招聘し、実践的・専門的な知識・技術を修得することで、臨床力の向上を図る。		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：東洋療法学校協会教員研修会 連携企業等：(公社)東洋療法学校協会 期間：令和4年8月18日～19日 對象：専任教員 内容 あん摩マッサージ指圧・はり・きゅうの教育における教員の教授力向上、教育方法・学生指導方法の改善及び教員の資質向上等を図る。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、学校が自ら行った自己点検・自己評価の精度の向上と学校運営における連携・協力の促進を図ることを目的として行う。学校は毎年学校関係者評価を行い、自己評価と共に公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①理念・目的・育成人材像は定められているか②学校における職業教育の特色は何か③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか④理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているかどうか⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(2)学校運営	①目的等に沿った運営方針が策定されているか②運営方針に沿った事業計画が策定されているか③運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか④人事、給与に関する制度は整備されているか⑤教務、財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか⑦情報システム化による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	①教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか④実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか⑤関連分野の企業・関連施設等、業界団体等のニーズを踏まえた教育活動がされているか⑥・関連分野における実践的な職業教育(医療機関との連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか⑦授業評価の実施・評価体制はあるか⑧学生の研究に対する支援体制はあるか⑨職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか⑩成績評価・単位認定の基準は明確になっているか⑪資格取得の指導体制・カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか⑫人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか⑬関連分野における業界との連携において優れた教員(本務・業務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか⑭関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか⑮職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	①就職率の向上が図られているか②資格取得率の向上が図られているか③退学率の低減が図られているか④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか②学生相談に関する体制は整備されているか③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか④学生の健康管理を担う組織体制はあるか⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか⑥学生の生活環境への支援は行われているか⑦保護者と適切に連携しているか⑧卒業生への支援体制はあるか⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか⑩高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか⑪国家試験不合格者に対する支援体制はあるか
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか③防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受け入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか③学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか③財務について会計監査が適正に行われているか④財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか③自己評価の実施と問題点の改善に努めているか④自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか②生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか③地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか④地域との連携・交流をしているか
(11)国際交流	該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

企業委員から、「学校ホームページに卒業生の治療院等の一覧を掲載してはどうか。在校生がどのような治療院・企業に就職したいのか、企業とのペアリングの一助となり得ると考える。」との意見があり、ホームページに卒業生を含む外部臨床実習先の治療院等一覧を掲載した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
岩元 健朗	岩元鍼灸院接骨院 院長	令和4年4月1日～令和5年3月 31日	企業等委員 (鍼灸業界)
大竹 健一	株式会社ケッズトレーナー 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月 31日	企業等委員 (鍼灸業界)
石川 慎太郎	東京有明医療大学 准教授	令和4年4月1日～令和5年3月 31日	大学教員
吉崎 正恒	東京都立東大和高等学校	令和4年4月1日～令和5年3月 31日	高校教諭
星野 博子	株式会社キノワ 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月 31日	卒業生
鈴木 康成	健康堂整骨院 総院長	令和4年4月1日～令和5年3月 31日	企業等委員 (柔道整復業界)
深澤 栄一	小渕沢治療室 院長	令和4年4月1日～令和5年3月 31日	在校生保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL: https://www.kuretake.ac.jp/t_therapeutic/about/evaluation

公表時期: 令和4年10月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者評価は、学校が自ら行った自己点検・自己評価の精度の向上と学校運営における連携・協力の促進を図ることを目的として行う。学校は毎年学校関係者評価を行い、自己評価と共に公表する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、設置目的、教育理念、運営方針、校長名、所在地、連絡先、沿革等
(2)各学科等の教育	各科の概要(定員・修業年限等)、カリキュラム、シラバス、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー、取得資格率、卒業者数、就職率等
(3)教職員	教職員数、教員プロフィール等
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の取組及び実施報告、就職支援等
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動等
(6)学生の生活支援	指定学生寮、健康管理、学生相談等
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金・教育ローン、学校独自の奨学金、経済的支援措置等
(8)学校の財務	事業報告書、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、監査報告書
(9)学校評価	自己点検自己評価および学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	上海中医薬大学学術交流
(11)その他	職業実践専門課程の基本情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ

URL: https://www.kuretake.ac.jp/t_therapeutic/about/evaluation

公表時期: 令和4年10月31日

2	○	臨床医学各論	<p>中医治療 II [一般目標:G10]</p> <p>十二経筋の生理と病理を理解し臨床に応用できるようにする。中医学における外感病の弁証として六經弁証習得する。奇經八脈の概要と治療を習得する。中国伝統医学における基礎理論(气血津液の生成と循環)について、それによる臨床的意義を踏まえて再確認する。東洋医学における適確な診断技術の習得をめざす。特に腹診・舌診・脈状診による総合的な診断ができるように学習する。中医内科学として臨床で出会う症候を学習する。</p> <p>[行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 経筋病に対し吸角療法ができる。2. 六經弁証を理解し、外感病に対する診察法・治療法の概要を学び施術ができる。3. 奇經八脈治療を用い、婦人科疾患に対する診察法・治療法の概要を学び臨床応用ができる。4. 気血津液の生成過程及び循環を理解し、その知識を病態分析に役立てるようできる。5. 東洋医学の診断術の習得とその診断に応じた鍼灸配穴ができる。6. 東洋医学の診断術から一般的な漢方処方もできる。</p>	1 前 中	96	3	○	△	○	○
3	○	リハビリテーション医学	<p>[一般目標:G10]</p> <p>理学療法の治療手段である運動療法を、臨床運動学を応用しながら学ぶ。具体的には関節運動学的アプローチなどについて理論と手技を実践していく。</p> <p>[行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 関節運動学的アプローチを理解し実践することで、他の手技[マッサージや鍼灸]との相乗効果をあげる。2. 関節運動学的アプローチの評価と治療を臨床の場で利用できるようにする。3. 臨床に生かせる臨床運動学を理解し、臨床に生かせる。4. 関節運動学的アプローチに必要な関節の治療前評価ができる。5. 治療前評価を生かした関節運動学的アプローチによる関節調整ができる。6. 関節運動学的アプローチによる治療効果の判定ができるようになる。</p>	1 後	24	1	○	○	○	○
			<p>手技臨床学 I [一般目標:G10]</p> <p>臨床実習に参加する上で必要とされるあん摩・指圧を中心とした基本実技を習得し、あわせて触診・身体診察技術の向上をはかる。各部位の筋肉の張り具合や状態を触診により感じ取り、医療面接を基に視診なども参考に症候を判断し、適切な手技を行う。</p> <p>[行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 体の各部位ごとの触診を適確に行うことができる。2. 手技を行う前の身体診察を適確に行うことができる。3. 施術に際して必要なマ- (例:爪の手入れ)を理解し、実行できる。4. いわゆる四大疾患のうち手技が有効であるものを鑑別し、患者さんに説明することができる。5. 症例に対して適切にあん摩と指圧基本実技の施術や運動療法ができる。</p>							

4	○	東洋医学臨床論(あま指1)	<p>マッサージ 臨床学</p> <p>[一般目標:G10]</p> <p>基本姿勢・基本手技から伏臥位・仰臥位での部位別のオイルマッサージ 基礎と臨床オイルマッサージ の基礎などを確実に身につける。さらに臨床に役立つ基礎知識と臨床オイルマッサージ を実践できる基本実技を取得し、臨床の現場でのオイルマッサージ 治療を行っていくる基盤づくりを目指とする。</p> <p>[行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. オイルマッサージ 施術に必要な健康状態の情報収集を身につける。2. オイルマッサージ に必要なマー(例:爪の手入れ)を理解し、実行できる。3. オイルマッサージ の有効性と注意点を理解し、適切に技術を応用できる。4. オイルマッサージ の基礎を身につけ、基本姿勢・基本実技(運動療法)が確実にできる。5. 伏臥位における身体各部への技術応用ができる。6. 仰臥位における身体各部への技術応用ができる。7. 施術評価の判定ができる。8. 臨床オイルマッサージ の現状を理解し、施術目的を考え応用できる。</p> <p>リンパ浮腫に対する複合的理学療法</p> <p>[一般目標:G10]</p> <p>リンパ浮腫を理解し、CDT(マニュアルリンパドレナージュ・圧迫療法・運動療法)の基礎を習得し、リンパ浮腫症例別の治療法を学ぶ。</p> <p>[行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. リンパ管系の解剖学・生理学、腫瘍について学習しリンパ浮腫の病態を理解する。2. CDTの理論を理解する。3. マニュアルリンパドレナージュの基礎を習得する。(実技)4. 圧迫療法の基礎を習得する。(実技)5. 運動療法の基礎を習得する。(実技)6. 治療マネジメントを理解する。(ガーメット計測も含める)</p> <p>徒手矯正</p> <p>[一般目標:G10]</p> <p>即臨床に役立つ手技による治療法を学習修得する。視診・触診・徒手検査により、脊柱及び上肢・下肢・各関節の歪みを見つける。各関節のほぐし方(柔軟操作法)と矯正法の基本実技を学習修得する。患者さんへの運動療法を含む日常生活指導を学習修得する。</p> <p>[行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 徒手矯正の理論を理解し、臨床へ応用できる。2. 脊柱及び上肢、下肢、各関節の歪みを見つけることができる。3. 柔軟操作法の基本実技の必要性を理解し、治療対象となる関節に対する適切な柔軟操作法ができる。4. 治療対象の関節に対する解剖的知識を基に適切な矯正法ができ、治療後に評価ができる。5. 患者に向き合うための心構えを培うことができる。</p>	1 通	96	3	△	○	○	○ ○
			<p>手技臨床学Ⅱ</p> <p>[一般目標:G10]</p> <p>体ポーツ動作や日常生活動作を機能面から観察し、按摩マッサージ・指圧の手技及び効率的な運動操作法(ストレッチング)を学び、症例別の治療法の習得を目指す。</p> <p>[行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 身体の正しい姿勢が理解できる。2. 身体の患者への正しいポジションが理解できる。3. 身体の正しい運動操作を理解し取得できる。</p> <p>操作法</p> <p>[一般目標:G10]</p> <p>操作法は、故橋本敬三先生が民間療法の一つだった生体法を基に作り出した筋骨格系の矯正法で、SPATはSoutaihou-basedposuturaladjusttechnique(操作法を基礎にした、運動療法技術)の頭文字をとり、名付けられた矯正法である。操作法の基本的考え方「操作原理」をもとにどのような機序で効いていくのかを学ぶ。</p> <p>[行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. いわゆる四大疾患をうち操作法が有効であるものを鑑別し、症例別の治療法を行うことができる。2. 症例に対して症例別の治療法が応用できる。</p>							

5	○	東洋医学臨床論(あマ指2)	<p>手技評価学 [一般目標:G10] 臨床に多く見られる症例についてあん摩と指圧を中心とした基本実技と応用学習を行う。動作から評価を用いて症状の発生原因を明らかにし、その原因に対して適切な手技を行える技術の習得を目指す。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. SFMA(Selective Functional Movement Assessment)を用いた身体の評価を行なうことができる。2. 上位・下位交差性症候群の原理を理解し、症状に対し施術計画を立てる事ができる。3. 筋肉、骨の触察能力の向上を目指す。4. トリガーポイントの特性を理解する事ができる。5. トリガーポイントを的確にアプローチする事ができる基本実技習得を目指す。6. 目的に合わせた適正な刺激量の調整が出来るようを目指す。7. 適切な運動療法を行う事ができる。</p> <p>スポーツマッサージ [一般目標:G10] スポーツ活動は、国民の「健康維持や疾病予防」に大きな役目を果たしている。またその競技性と娛樂性により、多くの人が、「行う者」として、または「見る者」としてスポーツのファンとなっている。このように現在の日本では、小中学生から高齢者まで、幅広い年齢層の人々が、スポーツに携わっている。「人々の健康に寄与する」私達にとって、スポーツに関与することは、大事な職業的な意味を持っている。「鍼灸マッサージ師」のスポーツへの係わり方を、本講座を通して学んでいく。まずスポーツへの、私達の係わり方について学習する。そして、スポーツによって引き起こされる故障や障害の知識を得る。スポーツマッサージによるそれらへの治療法、スポーツ愛好家や選手への体調管理への知識、そしてスポーツマッサージ実技習得による早期疲労回復法、治療所やスポーツ現場でのトレーナー活動でのスポーツマッサージの実際などを学ぶ。最後に、ロンドンオリンピックで行われた最新のスポーツマッサージ「ファンクショナルスポーツマッサージ」体の動きを良くすることを目的としたマッサージ」を習得する。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 鍼灸マッサージとしてスポーツに係われるようになる。2. スポーツにおける外傷や障害の内容と鑑別の知識があり、それを説明できる。3. 障害の真の原因を探し出し、症例別の治療法で対応できる。4. 治療所や入院現場でのマッサージニーズをふまえ、症例別の治療法にに対応できる。5. スタビリゼーション(体幹)トレーニングやストレッチを指導できる。6. 選手が体調を良好に保つための指導や治療など個々の症例別の治療法ができる。7. 各スポーツの特性に基づいたマッサージを組み立て、症例別の治療法ができる。8. 疲労からの回復、体の動きを良くする、機能向上をマッサージで実現できる。</p>	1 前 中	96	3	△	○	○	○
			<p>低周波通電療法 [一般目標:G10] 鍼灸基本実技の低周波鍼通電療法(ElectroAcupuncture Therapy EAT)の技術のうち、骨格筋・体性神経を対象とした通電方法(筋パルス・神経パルス)の技術部分を中心に実習を行う。また各時限においてテーマとした筋肉・神経の周辺の触察、施術上の安全管理、筋肉・神経の問題点を観察するための理学的な診察方法・部位ごとの臨床応用を共通の話題とする。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 低周波鍼通電療法の使用目的を理解する。2. 低周波通電装置を安全に使用することができる。3. 鍼通電の適用部位の正確な触診と通電のための刺鍼ができる。4. 目的の筋肉・神経に対して適切に通電が出来る。5. 授業中に話題とした筋・神経以外についても、解剖学的知識を活用し、各自の独創的な発想で、筋パルス・神経パルスの臨床実践ができるようになることを目指す。</p>							
			灸臨床							

6	○	東洋医学臨床論(はき1)	[一般目標:G10] 灸法の発展の歴史を理解し、各種灸法の理論と技法を習得する。深谷灸法や澤田流太極療法などを学び、頻用穴の取穴法および臨床への応用法を学習する。臨床で遭遇することの多い疾患に対する各種灸法を各論的に学習する。各種灸法の患者指導(自宅施灸など)や養生灸への応用などを学習する。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 灸法の歴史を理解し、臨床への応用方法を述べることができる。2. 体幹部の頻用穴と取穴法を述べ、適切に施灸することができる。3. 四肢の頻用穴と取穴法を述べ、適切に施灸することができる。4. 頭面部・頸部の頻用穴と取穴法を述べ、適切に施灸することができる。5. 施灸の効果を各自が体験し、臨床応用できる。6. 灸法の応用できる眼疾患を列記でき、適切に施灸ができる。7. 腱鞘炎・ばね指に対して、適切に施灸ができる。8. 痔疾患に対して、適切に施灸ができる。9. 灸法の応用できる感冒を列記でき、適切に施灸ができる。10. 灸法の応用できる顔面麻痺・三叉神経痛を列記でき、適切に施灸ができる。11. 花粉症に対して、適切に施灸ができる。12. 月経不順に対して、適切に施灸ができる。13. 耳鳴・難聴に対して、適切に施灸ができる。14. 冷え症に対して、適切に施灸ができる。15. 灸法の応用できる皮膚疾患を列記でき、適切に施灸ができる。16. 各種灸法を列記でき、その特長を生かして臨床に応用できる。17. 深谷灸法や澤田流太極療法、その他の古典から頻用穴を紹介する。深谷灸法や澤田流太極療法、その他の古典から頻用穴を紹介する。	1 前 中	96	3	△	○ ○	○
			長野式(w-Key net)治療《一般目標:G10》 各講座では、「長野式治療法」の素晴らしいを訴え続けている松本岐子氏の治療法 : 「キー子スタイル」もお話しします。松本氏はハーバード大学医学部で「長野式治療法」を中心とした東洋医学を教えられていますが、大学でも使用されている英文の著書『Kiiko Matsumoto's Clinical Strategies』の和訳講座を通して、さらに松本氏が故長野先生より教えられた非常に多くの治療法を学びます。 《行動目標/到達目標:SB0s》 1. 長野式(w-key net)治療の特徴を説明することができる。 2. 腹診及び背候診の反応点を見つけることができる。 3. 問診表から導かれる取るべき所見部位を考えることができる。 4. 基本的な長野式治療法とキー子スタイルの処置法を身につける。 5. 特徴的な所見に対して、基本的な治療方針を立てることができる。 6. 症状や病気に対して、バックグラウンドを推測する思考力をつける。 経絡治療 I [一般目標:G10] 経絡治療を行うために必要な東洋医学的な基礎診断技術を習得する。経絡治療を行うために必要な東洋医学的な基礎理論を習得する。東洋医学概の理論が実際に臨床に行かせるようケースバイケースで学ぶ。 [行動目標/到達目標:SB0s]						

7	○	東洋医学臨床論(はき2)	<p>1. 経絡治療にみられる病態把握、治療方針の立証、治療の流れを理解し、説明することができる。2. 経絡治療の病理理論に基づいて、治療を行う上で必要とされる基本的な技術を列記できる。3. 経絡治療にみられる祖脈診の理論を理解し、客観的な指標として実践できる4. 四診法によって収集された診断情報を取捨選択して、的確な病態把握ができる。5. 日本での鍼灸と経絡治療の発展を理解する。6. 東洋医学における藏象を基に、経絡治療に必要な東洋医学的生理・病理を理解する。7. 東洋医学に病態把握を適切に捉え、治療方針(証)を立てることができる。8. 治療を展開するための経過観察マークをどのように設定するを理解する。9. 病証理論を理解し、症例別の治療法により臨床に応用できる。10. 比較脈診を理解し、症例別の治療法により臨床に応用できる。</p> <p>経絡治療 I</p> <p>[一般目標:GIO]</p> <p>経絡治療を行うために必要な東洋医学的な基礎診断技術を習得する。経絡治療を行うために必要な東洋医学的な基礎理論を習得する。東洋医学概の理論が実際に臨床に行かせるようケーススタディ形式で学ぶ。</p> <p>[行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 経絡治療にみられる病態把握、治療方針の立証、治療の流れを理解し、説明することができる。2. 経絡治療の病理理論に基づいて、治療を行う上で必要とされる基本的な技術を列記できる。3. 経絡治療にみられる祖脈診の理論を理解し、客観的な指標として実践できる4. 四診法によって収集された診断情報を取捨選択して、的確な病態把握ができる。5. 日本での鍼灸と経絡治療の発展を理解する。6. 東洋医学における藏象を基に、経絡治療に必要な東洋医学的生理・病理を理解する。7. 東洋医学に病態把握を適切に捉え、治療方針(証)を立てることができる。8. 治療を展開するための経過観察マークをどのように設定するを理解する。9. 病証理論を理解し、症例別の治療法により臨床に応用できる。10. 比較脈診を理解し、症例別の治療法により臨床に応用できる。</p>	1 通	96	3	△	○	○	○
			<p>体^ホ-ツ医学/物理療法概論</p> <p>[一般目標:GIO]</p> <p>体^ホ-ツ医学は、トレーニング^{トランジング}や体^ホ-ツが身体に与える影響を踏まえて、医学的知識を競技力向上や健康の保持増進に役立てることと、運動学的知識を運動不足や疾病の予防、治療、リハビリテーションなどに役立てるために、医学と運動学を融合させた学問といえる。本講義では、体^ホ-ツ医学の意義、外傷・傷害論およびその治癒過程、体^ホ-ツ競技の現場でみられるコケ^{コケ}イシヨン^{シヨン}、調整法、体^ホ-ツテピ^{ソウ}など実際に体^ホ-ツ現場で行われている方法を手技の科学を用いて学習する。また最近、注目されている体軸を意識したパラントレーニング^{パラントランジング}などについても学習する。</p> <p>[行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 体^ホ-ツ外傷と障害を分類できる。2. 体^ホ-ツ損傷の治癒過程を述べることができる。3. 体^ホ-ツ選手の体調管理を述べることができる。4. アスレティックトレーニング^{アスレティックトランジング}の内容を説明できる。5. トレーニング^{トランジング}の理論を理解することができる。6. アスレティックリハビリテーションについて説明できる。7. 体^ホ-ツライセーショントレーニング^{トランジング}の効果を説明できる。8. トレーナーの理論を理解することができる。9. 足関節を中心に簡単なテピ^{ソウ}を行なうことができる。10. 冷却の概念や手技の科学を理解することができる。</p>							

8	○	あマ指理論	<p>スボーツコンテイショニング [一般目標: G10] 近代スポーツの分野において、プロスポーツ選手の治療やコンディショニングの調節という目的で、我々あん摩マッサージ指圧師が活動し施術を行う機会が多くなっている。あん摩マッサージ指圧師においてスボーツ選手を治療するうえで、まずスボーツ障害を理解することが重要である。特にこの講義において、スボーツ障害、外傷を学習し、実際の現場で活用できる、スボーツ分野での手技の科学を学び知識を向上させる。</p> <p>[行動目標/到達目標: SB0s]</p> <p>1. スボーツ損傷について理解することができる。2. 肩関節の病態評価と機能的評価ができ、適切な処置が行え、肩関節の機能向上の治療が可能となる。(肩関節の安定化機構の重要性について学習し理解することが可能となる)3. 膝関節の病態評価と機能的評価ができ、適切な処置が行え、膝障害の機能向上の治療が可能となる。(特に膝関節痛で起こる膝窓の症状について考察し膝機能向上の治療を行うことが可能となる)4. 足関節(内反捻挫)の病態評価と機能的評価ができ、手技の科学に基づいた適切な処置が可能となる。5. 筋障害(肉離れ)の病態評価と機能的評価ができ、手技の科学に基づいた適切な処置が可能となる。6. アイシング(冷却療法)の方法と作用機序について考察。(スボーツ現場における方法が可能となる)7. 運動連鎖における股関節の機能的重要性と機能評価および手技の科学に基づいた治療方法を理解し学習できる。</p> <p>介護予防運動指導 [一般目標: G10] あん摩マッサージ指圧臨床で治療する頻度が高い疾患や療養費対象となる疾患・症状に対して、あん摩マッサージ指圧治療の有効性と有用性についてEBMを踏まえて手技の科学を学習する。さらにあん摩マッサージ指圧の果たす役割について理解する。</p> <p>[行動目標/到達目標: SB0s]</p> <p>1. 地域医療におけるあん摩マッサージ指圧師の役割について学ぶ。2. 介護予防の必要性を理解し、スクリーニングのための評価、効果判定のための評価、測定方法を学ぶ。3. プログラムを安全に実践できるように、基本的なリスク要因を理解し、医療、介護、福祉専門職と連携が取れるようにする。4. 高齢者向けの軽運動、高負荷筋力トレーニング、機能的トレーニングの方法を学ぶ。5. 転倒予防プログラムを体験する。6. 人の自然な動きを意識した介助方法7. 高齢者筋力向上理論修得の確認。</p>	1通	60	2	△	○ ○	○
9	○	はき理論	<p>経絡治療Ⅱ [一般目標: G10] 四診法によって得られた診断情報と、はき臨床学「経絡治療」で学ぶ知識とを基に病態把握、症例別の治療法を組み立て、治療、経過観察など、実際の経絡治療の臨床を行うための基礎技術を習得し、症例別の治療法を学ぶ。</p> <p>[行動目標/到達目標: SB0s]</p> <p>1. 臨床家としての基本姿勢を身につけることができる。2. 四診法のポイントを説明することができる。3. 生来の体质の捉え方を理解することができる。4. 祖脈診の読み取り方を理解することができる。5. 脈状の可視化を理解することができる。6. 基本的な脈診・腹診・背部診を行うことができる。7. 診断情報を収集・解析し、病態把握により、症例別の治療法を施術することができる。</p>	1通	60	2	△	○ ○ ○	

				中医鍼灸学 [一般目標:G10] 臨床実習で中医学に基づく施術が出来るようになるための鍼灸の科学に基づいた基礎理論を学習する。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 中医学の特性を理解し、その特徴を列記することができる。2. 陰陽五行について、その精神の本質を掌握する。3. 気・血・津液の相互関係を理解し、臟腑と関連させて理解する。4. 脏象のそれぞれ特徴的な症状を理解し、弁証につなげ POSSIBILITY ことができる。5. 中医学での病因病機を理解することができる。6. 中医学の考え方で鍼灸の科学に基づいた治療方針が立てられ治療することができる。							
10	○		共通臨床実習	臨床担当 [一般目標:G10] 鍼灸・手技での治療のアプローチについて臨床実践を通して修得する。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 症例に対し鍼灸による治療を組み立てられる。2. 症例に対し手技による治療を組み立てられる。3. 症例報告を行うことができる。 症例検討会 [一般目標:G10] 主に現代鍼灸による治療による症例を取り上げヒーディングにのっとった施術が行われているか検討する。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 症例報告書を作成することができる。2. 症例に対して客観的な評価ができる。3. 検討会を通じて病態把握、鑑別診断が出来るようになる。	1 中 後	90	2	○	○	○	○
11	○		はり、きゅう 臨床実習	[一般目標:G10] 現代鍼灸・経絡治療・中医臨床・灸治療のアプローチについて症例100例以上の臨床実践を通して修得する。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 現代鍼灸的アプローチによる鍼灸治療を組み立てられる。2. 経絡治療的アプローチによる鍼灸治療を組み立てられる。3. 中医臨床的アプローチによる鍼灸治療を組み立てられる。4. 灸臨床的アプローチによる鍼灸治療を組み立てられる。5. 100例以上の症例を行うことができる。	1 中 後	180	4	○	○	○	○
12	○		あん摩マッサージ 指圧臨床実習	[一般目標:G10] あん摩マッサージ 指圧での治療のアプローチについて症例30例以上の臨床実践を通して修得する。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. あん摩による治療を組み立てられる。2. マッサージによる治療を組み立てられる。3. 指圧による治療を組み立てられる。4. 30例以上の症例を行うことができる。	1 中 後	180	4	○	○	○	○

13	○	関係法規・医事法規	[一般目標:G10] 医療の専門家として身に付けるべき法学的素養の灌養に努める。東洋医学を中心とした医事法体系を、単に制度論に止まることなく、その歴史的経緯や実際に争われた裁判例を中心として考察する。東洋医学の有資格者にとって最大の関心事である業務範囲の問題点や、近年急増している医療過誤訴訟についても取り上げる。医療人の永遠のテーマである「生命の質」に関して、法学的見地から考察を加えてゆきたい。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 医事法学の対象とその課題を述べることが出来る。2. インフォームド・コンセントについて概略を理解し、その意義を実践できる。3. 東洋医学の法整備の歴史的な変遷を述べることが出来る。4. 医療類似行為とは何か理解し、その内容を述べることが出来る。5. 鍼灸マッサージ 師法の法構造を理解し、その内容を述べることが出来る。6. 医行為の概念を理解し、鍼灸マッサージ 師が留意すべき内容を述べることが出来る。7. 医療事故の実態を知り、予防・対処に生かすことが出来る。8. 先端治療の発展の背後にある、人の生と死をみつめ、医療に携わるものとしての心構えを習得する。	1 後	24	1	○	○	○	○	
14	○	原典(古典)閲読 I・II	[一般目標:G10] 中国医学の起源と発展を学習し、東洋医学の初学者に対してどのように古典を教え、また興味を持たせるかについて自ら体験することを通して理解する。東洋医学的な診療に必要な経絡経穴の概念を学ぶ。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 中国医学の起源と発展について説明することができる。2. 初学者に対する東洋医学の教え方を理解することができる。3. 医古文、素問・靈枢・難經(白文)について辞書を引きながら読むことができる。4. 医学古典の現物に接することにより鍼灸医学の源泉を知る。5. 十二經脈の成立過程・文献を学習し、流注を述べることができ、その使い方を説明できる。6. 奇經八脈の成立過程・文献を学習し、流注を述べことができ、その使い方を説明できる。7. 五行穴・五俞穴についてその成立過程を理解し、その使い方を説明できる。8. 現代に受け継がれる東洋医学の古典文献を難経を中心に学習し、概略を説明できる。9. 古典から導き出される治療の概略について説明できる。	2 前後	48	2	△	○	○	○	
15	○	外国語(あはき師のための英会話、英文論文抄読)	[一般目標:G10] 今後益々日本を訪れる外国人は増加し、インバウンド向けにも「JapaneseAcupuncture」の存在をアピールすべきだという声も上がっている。さらに海外で活躍したいと思っている鍼灸師も増えている中、あはき師にとって必要なフレーズ、単語、患者対応の仕方には独特なものがある。本講義ではあはき師が臨床に必要な問診から治療までの一連の英会話について学習する。研究分野において英文論文を読むことは欠かせない。本講義では卒論研究に関するテーマを中心に英文論文の抄読を行い、英文論文に慣れ親しむことを目的とする。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. あはき臨床に必要な初步的な英会話を理解することができる。2. 英語記載の診療録について理解することができる。3. 研究テーマにあった英文論文を検索することができる。4. 英文論文の抄読を行い要旨を理解することができる。	2 中後	48	2	△	○	○	○	

16	○	教育学概論 (医学教育)	<p>[一般目標:G10] 今日の医学教育の流れを理解した上で、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の養成校で、実際のあはき教育活動を展開する際、必要となる事柄を取り上げ多角的に学習する。</p> <p>[行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 医学教育の基本となる考え方を理解することができる。2. 授業の基本を述べることができる。3. アウトカム基盤型教育を理解することができる。4. 臨床実習の意義を理解することができる。5. 国家試験に代表される択一式試験問題作成の過程について理解することができる。6. あはき教育実習の過程について理解することができる。</p>	2 前	24	1	○		○		○
17	○	教育心理	<p>臨床心理学 [一般目標:G10] 臨床心理学は、心理的要因が関与している疾患や問題行動、不適応を示す個人(クライアント、あるいは患者)を理解し、治療・援助を行なうための学問です。本授業では、臨床心理学で重要なさまざまな理論を学習した上で、精神医療における最新の知見に触れながら、精神疾患の症状や病因論、治療・援助についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>[行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 臨床心理学の諸理論を理解する。2. 精神疾患の症状および病因論について知る。3. 精神疾患の治療や援助の方法について学ぶ。</p> <p>心理療法概論 [一般目標:G10] 心理療法とは、訓練を受け、社会的に承認されたセラピストによる対話や教示を通じてクライアントの不適応な認知、情緒、行動に変容をもたらし、精神障害や心身症の治療、心理的問題の解決や苦悩の軽減をはかる理論・技法のことを言います。本授業では、事例検討や演習を含めながら、心理療法における基本姿勢や倫理的問題、多種多様な理論・技法の特徴について理解することを目的とする。</p> <p>[行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 心理療法を実施するうえでの基本姿勢や倫理的問題を学ぶ。2. さまざまな心理療法の理論と技法、その特徴を知る。3. 実際の臨床事例を検討し、また演習を行うことで心理療法についての理解を深める。</p>	2 前 中	48	2	△	○	○	○	○
18	○	教授学習法	<p>教授学習法 [一般目標:G10] 教育とは、本来、理論と結びついた実践によって学習者を育てるという人間学的な技術過程である。そこで、この講義では、教育実践指導に必要な教育の方法・技術論の基本的事項の理解を図る。</p> <p>[行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 教授学の理論的・体系的な研究に努力を傾注した人物の教授方法論の原理・原則を理解できる。2. 学習者の学習に焦点を当てて、教授方法の特徴を示すことができる。3. 学習指導の改善(自己教育力・學習意欲の育成、學習のしかたの習得)の基本的視点について理解できる。</p>	2 前	79	2	△	○	○	○	○

			教育実践指導 [一般目標:G10] 学校における教員の資質・能力の向上に関する関心と期待は、高まっている。このような状況を踏まえて、教員としてその役割を十分に果たすために必要な専門的知識と指導技術の習得を目指す。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 指導教科・科目についての目標が理解できる。2. 本時の目標と内容・教材の選定ができる。3. 指導内容及び教材に対する専門的研究ができる。4. 学生の学習状況を把握し、指導ができる。5. 学習指導案の作成ができる。	別 中								
19 ○		教育実習(模擬授業・見学実習・臨床指導実習)	教育技法・あはき教育論 [一般目標:G10] 内容を全体的構造的論理的実証的に理解し、筋道だった授業内容を構成し、適切な教育方法を活用する実践力を培う。また考えさせる授業を工夫したり、実技を指導したりする実践力を養う。生徒とコミュニケーションをとり、生徒の学習状況を把握し、臨機応変に対応する大切さを実感的に学ぶ。形式にあった授業計画を作成し、生徒の学習到達状況を評価するとともに、授業の改善点を自覚できるようにする。実際の授業に自信を持てるようにする。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 担当範囲の内容について関係構造を整理し、その意義を把握出来ること。実技面で範示ができる。2. 専門的な見地からとくに重要な事項を洗い出し、どうして重要か判断できる。3. 生徒の認識の弱点を洞察し、思い違いをしそうな事項・理解しにくい事項を洗い出せる。4. 教育方法の意味を理解し、教授手段・技法に関する知識を広げ、留意点を守って活用できる。5. 適切な教授手段・教材を選択し、順次性があり、発問や応答を想定した授業の計画・準備ができる。6. 授業案を作成できる〔模擬授業前および授業後の改善〕。7. 模擬授業で、教授手段を活用し、わかりやすい説明、指示ができる。8. 生徒の立場に立って範示をし、安全にも配慮した的確な実技指導ができる。9. 生徒とコミュニケーションが取れる。生徒の反応が読みとれる。噛み合った応答ができる。10. 生徒の反応や状況の変化に対して、臨機応変の教育的外(叱正を含む)が取れること。11. 生徒の学習到達状況を把握、評価できる。12. 自己の授業を評価し、問題点の改善が図れる。	2 通	72	2	○	○	○	○	○	

20 ○	人体形態学論	<p>組織学・病理学 [一般目標:G10] 上皮・筋・神経・結合組織の各標本を光学顕微鏡を用いて観察し、細胞や組織のそれぞれの名称を確実におさえながらしっかりとスッキツする。このような作業を通じて、人体が如何に巧妙に構築され、構造と機能が如何に緊密に関わっているかを学習していく。さらに、それぞれの疾患によって臓器や組織がどのような病像をとるかを、顕微鏡標本を観察することによって理解を深める。それらによって得られた病理組織学的知識によって、臨床所見の解釈や臨床診断に対してより科学的な考え方ができる素養を培う。 [行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 骨格筋の特徴を説明できる。また心筋との相違を説明できる。2. 肝臓の小葉構造と三つ組み構造を判別できる。3. 皮膚にみられる毛胞・脂腺・汗腺などの特徴を説明できる。4. 脊髄神経と脳、脊髄の全体像を理解し、中枢神経の白質と灰白質を判別できる。5. 消化管の基本構造を理解し、粘膜・腺・平滑筋・神経叢の特徴を列記できる。6. 肺小葉にみられる肺胞・細気管支の構成を説明できる。7. 腎小体・尿細管・集合管の構成・構造における特徴を説明できる。8. 骨組織と軟骨組織の特徴を述べることができる。9. 正常組織と癌組織の違いを述べることができる。10. 肝・腎の正常標本と病理標本の違いを述べることができる。11. 肺の正常標本と病理標本の違いを述べることができる。12. 顕微鏡病理標本を観察することによって、疾病の成り立ちを理解できる。13. 脾臓とリバ・節の構造を説明できる。14. 脇臓における外分泌系と内分泌系の組織を判別できる。15. 精巣(精子形成・間細胞)と精巣上体(精路)の構造について説明できる。16. 子宮・卵巣の構造を説明できる。17. 胃粘膜の構造と胃癌の相違を説明できる。18. 皮膚疾患の病理的変化について述べることができる。19. 心筋梗塞巣を判別できる。20. 動脈硬化の症状を説明できる。</p> <p>系統解剖学 [一般目標:G10] 肉眼解剖学において必要とされる専門知識と技能を培うとともに教員としての倫理観の育成を行う。実習することにより局所解剖と触察解剖を学ぶ [行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 局所の正常構造と関連器官の機能を理解し、説明することができる。</p>	2 通	84	3	△	○	○	○	○	○	○

21 ○	人体機能学論	生理学・皮膚科学 [一般目標:G10] 鍼灸院を訪れる患者さんが医療機関で受けることの多い臨床検査項目について取り上げ、各検査の意義を疾病的病態生理と関連づけて学習する。また机上で学んだ生理学理論に基づき、鍼灸臨床あるいは教育に必要な身体の生理的現象を実際に観察し、得られたデータを科学的・論理的に分析する能力を育てる。 鍼灸施術は患者さんの皮膚に直接アプローチするものであり、皮膚の状態を把握することが大切となる。本講義では皮膚に病変として現れる疾患について理解を深める。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 一般検査および血液検査の項目を列記でき、病態生理を理解できる。 2. 生化学検査および微生物検査の項目を列記でき、病態生理を理解できる。 3. 病理検査および生体検査の項目を列記でき、病態生理を理解できる。 4. 実験小動物の生命の尊さを理解した上で、安全かつ適当に扱うことができる。 5. 実験で得たデータを適切にレポートにまとめることができる。 6. 運動反射を観察して、中枢神経系の役割が理解できる。 7. 内臓機能を観察して、自律神経系および内分泌系の役割が理解できる。 8. 骨格筋の収縮現象を観察して、筋収縮の発現機序が理解できる。 9. 血液型・ヘマトクリット値・血液沈降速度・血液像を観察して、血液の性状が理解できる。 10. 各種感覚試験を実践し、感覚発現のメカニズムが理解できる。 11. 生体外機器を用いて生理現象を観察し、得られた結果を説明できる。 12. 寒天培地による微生物検査を実践し、衛生学的概念が理解できる。 13. 疾患に伴う皮膚の変化について理解することができる。 14. 皮膚の状態から患者さんの病態を推論することができる。 15. 医療機関における皮膚科領域における治療の概要を理解することができる。	2 通	84	3	△	○	○	○

			<p>病態生理・治効理論 [一般目標:G10] 鍼灸臨床で治療する頻度が高い疾患や療養費対象となる疾患・症状に対して病態生理を理解し、鍼灸治療の有効性と有用性についてEBMを踏まえて鍼灸刺激と生体反応及びその機序を学習する。さらに鍼灸師の果たす役割について理解する。 [行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 関節リウマチの病態を理解し、その特徴を述べることができる。2. 関節リウマチへの鍼灸治療の有用性を理解し、臨床効果を客観的に評価できる。3. 腰部脊柱管狭窄症の病態を理解し、その特徴を述べることができる。4. 腰部脊柱管狭窄症への鍼灸治療の有用性を理解し、臨床効果を客観的に評価できる。5. 腰痛の病態と対応について理解することができる。.. 糖尿病の合併症と問題点について列記できる。6. 腰痛の鍼灸治療の有用性を理解し、臨床効果を客観的に評価できる。7. 糖尿病の病態を理解し、その特徴を述べることができる。8. 糖尿病に対する鍼灸治療のアプローチを理解し、可能性について述べることができる。9. 糖尿病の合併症への鍼灸治療の有用性を理解し、臨床効果を客観的に評価できる。10. 末梢性顔面神経麻痺の病態を理解し、その特徴を述べ POSSIBILITY ことができる。11. 末梢性顔面神経麻痺への鍼灸治療の有用性を理解し、臨床効果を客観的に評価できる。12. 肩関節周囲炎の病態と鍼灸治療の有用性を理解し、臨床効果を客観的に評価できる。13. 腕症候群の病態と鍼灸治療の有用性を理解し、臨床効果を客観的に評価できる。</p>					
22	○	公衆衛生	<p>[一般目標:G10] ①医学における今日の課題と対策について社会医学の最新情報の提供により学習する。②日常遭遇する疾患、障害について理解する。③診断のプロセスを理解する。①～③についてグループワークや講義形式で学習し、問題解決能力を高める。 [行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 公衆衛生上の今日的課題とその対策を考えることができる。2. 日常遭遇する疾患障害について詳細を把握し、その問題点を理解することができる。3. 診断へのプロセスを理解し、実践できる。</p>	2 前	24	1	○	○
23	○	医療概論	<p>[一般目標:G10] 医療社会学とは、医療や保健、健康、病気に関する問題について、社会学的な側面からその性格を明らかにすると共に、問題解決に必要な科学的な根拠を提供する社会学の一分野である。この講義では以下の4点についてグループワークや講義式で学習し、問題解決能力を高める。①医学における今日の課題と対策について学習する。②医療とEBMについて理解する。③あん摩マッサージ指圧、はりきゅうの歴史とともに医療倫理について学ぶ。④補完代替医療(Complementary&Alternative Medicine:CAM)の医療社会学について学ぶ。 [行動目標/到達目標:SB0s]</p> <p>1. 公衆衛生学的問題点を明らかにし、その対策を考えることができる。2. EBMの考え方を理解し、その方法論を策定できる。3. 診断のための基本的知識を身に付け併せて病態生理を把握することができる。</p>	2 中	24	1	○	○

24	○	あん摩マッサージ 指圧、はり、 きゅう臨床論	良導絡自律神経調整療法 [一般目標:G10] 良導絡の基本である良導絡測定法を習得し、測定結果と問診等を基に全身調整への展開への考え方を取得し、更にノイロメーターと直流電気鍼を使って、マクスイソン鍼による早期鎮痛効果を出すテクニックと良導絡全身調整と反応良導点治療を行えるようにする。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 良導絡チャートを使った良導絡測定から不定愁訴の把握を行うことができる。2. ハーモンを使つた良導絡測定法と良導絡チャートを読むことができる。3. 測定結果をもとに良導絡全身調整(本治法)および反応良導点治療を行うことができる。4. 臨床上遭遇しやすい疾患に対し治療方針を立てることができる。5. 短時間で効果のできるER鍼を使いこなせる手技が修得することができる。6. 良導絡治療で治療時間の短縮ができる、効果の挙がる技量を身につけることができる。 婦人科疾患 [一般目標:G10] 不妊症を中心に婦人科疾患に対する適切な経絡治療・中医鍼灸を中心とした鍼灸治療を学習する。当疾患の臨床時における注意点を開業鍼灸師の立場から解説する。あわせて私の考える開業時における注意すべき点を紹介する。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 婦人科疾患における現代医学的な鑑別をすることができる。2. 婦人科疾患における東洋医学的な鑑別をすることができる。3. 患者に対し配慮し対応することができる。4. 不妊症に対し適切な鍼灸治療を行なうことができる。	2 中 後	48	2	△	○	○	○	○
25	○	あん摩マッサージ 指圧、はり、 きゅう臨床応用学(美容鍼灸)	[一般目標:G10] 美容鍼治療に必要な知識、技術の習得。操作法を取り入れた美容矯正方法など臨床に役立つ治療法を身に着ける。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 運動療法を取り入れ骨格からの歪みを矯正する方法について理解できる。2. 皮膚科学、美容鍼の効果、特徴、禁忌について理解できる。3. 各種医療美容法と美容鍼との併用について理解できる。4. 美容カウンセリングについて理解できる。5. 頸関節治療に活かせる美容鍼治療について理解できる。	2 中	24	1	△	○	○	○	○
26	○	臨床実習	[一般目標:G10] 現代鍼灸・経絡治療・中医臨床・灸治療のアプローチについて臨床実践を通して修得する。あわせて治療スタイルに応じた鍼灸治療を第三者に伝える能力を養う。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 現代鍼灸的アプローチによる鍼灸治療を組み立てられる。2. 経絡治療的アプローチによる鍼灸治療を組み立てられる。3. 中医臨床的アプローチによる鍼灸治療を組み立てられる。4. 灸臨床的アプローチによる鍼灸治療を組み立てられる。5. 治療スタイルに応じた鍼灸治療の後進の臨床指導を行うことができる。	2 前 中	270	6		○	○	○	○
27	○	はきヶーケンファレンス	[一般目標:G10] 附属施術所における症例について、主に現代鍼灸・中医臨床による治療による症例を取り上げヒーディングにのっとった施術が行われているか検討する。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 担当した症例についてカンファレンスで発表し、討論を行なうことができる。	2 後	45	1		○	○	○	

28	○	あマ指ケースカンファレンス	[一般目標:G10] 附属施術所における症例について、あん摩・マッサージ・指圧を中心とした治療による症例を取り上げエビデンスにのっとった施術が行われているか検討する。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 担当した症例についてカンファレンスで発表し、討論を行なうことができる。	2 中	45	1			○	○		○
29	○	研究法(統計研究手法)	[一般目標:G10] 本講義では、研究テーマの設定ならびに研究に必要な初步的な統計手法と研究発表までの流れを理解する。将来、教員として研究指導を行うあるいはEBMに基づいた臨床を行う際に必要となる客観的な物の見方を身につける。また、研究内容を受講学生に伝えると言うことを通じて、研究法の実践力を養う。 [行動目標/到達目標:SB0s] 1. 卒業論文研究のテーマを設定することができる。2. 卒業論文研究に用いられる代表的な統計手法を理解することができる。3. 学内学外の学会発表までの流れについて理解することができる。4. 卒業論文研究を通じてEBMを理解し、実践できる。5. 割り当て時間[毎週2~3名ずつ]の中で与えられた課題内容を伝達することができる。6. 発表日までに研究内容をまとめレジュメや講義資料の作成ができる。7. 発表内容に対する受講学生との間で適切な質疑応答ができる。8. 発表の受講者は、他人の発表に対して適切に意見をすることができる。	2 前 中	48	2	△	○	○	○		
30	○	卒業論文	卒業論文作成を通して、研究手法を身につけ、論文の書き方を学ぶ。	2 通	96	4	△	○	○	○		

合計

30科目

2298単位時間(71単位)

卒業要件及び履修方法				授業期間等
進級及び卒業の認定は、学業成績及び単位の修得並びに出欠状況等により教務会の議を経て校長が決定する。				1学年の学期区分 1学期の授業期間
				3期 12週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。